

勝手表彰・受賞者一覧

2013. 3. 13

利活用・普及委員会では、オープンデータに関する優れた取組みを、事務局が候補を収集し、利活用・普及委員会委員が選定して表彰する「勝手表彰」の審査を進めて参りました。この度、審査結果がまとまり、最優秀賞は『データシティ鯖江』と決まりました。

1. 審査結果

審査結果は、下記の通りです。

最優秀賞 / Google 賞	データシティ鯖江
優秀賞 / 日本 IBM 賞	2013 International Open Data Day
優秀賞	図書館横断検索サービス「カーリル」
優秀賞	Where Does My Money Go? の日本語化と横浜市版の作成
優秀賞	気象庁の一連の取り組み
優秀賞	あおもり映像コンテンツ・プロモーション
優秀賞	LOD チャレンジ
優秀賞	CKAN を用いたデータカタログサイト
日本マイクロソフト賞	横浜オープンデータソリューション発展委員会の活動
国際大学 GLOCOM 賞	東日本大震災アーカイブほか 3 件
ソフトバンクテレコム賞	エレクトリカル・ジャパン
全国地質調査業協会連合会賞	流山市/流山市議会の取り組み
Open Knowledge Foundation Japan 賞	電腦みやしろ

★受賞者について

各受賞者の概要は下記をご参照ください。

受賞作品名	概要
データシティ鯖江	データシティ鯖江として、様々なデータを XML 等の形式で公開。 <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の施設名、位置情報 ・消火栓の名称と位置情報 ・市が運営するコミュニティバス「つつじバス」の運行情報 ・西山動物園の動物情報 ・鯖江市内の文化財の写真、説明 ・市内の農産物直売所 ・鯖江市議会議員の情報など
2013 International Open Data Day	2013 年 2 月 23 日に世界中の都市で、オープンデータイベントを開催。日本では、東京、横浜、千葉、名古屋/東海、鯖江、青森、会津若松などで開催。
図書館横断検索サービス「カーリル」	全国 6,000 以上の図書館の蔵書・貸出情報を横断検索可能。API も提供しており、様々なアプリが開発されている。
Where Does My Money Go? の日本語化と横浜市版の作成	イギリスの Open Knowledge Foundation が開発した Where Does My Money Go? (英語版) をベースに日本語化し、さらに横浜市民が横浜市に納めている市税を対象として構築。自分の年間総収入をスライドで設定し、単身世帯か扶養一人世帯かを選択すると、給与所得者であるという前提で、横浜市に納めている市税年総額と 10 分野毎に一日当たり支払っている市税額が表示される。
気象庁の一連の取り組み	気象統計データなどをウェブサイトで公開。2012 年 12 月からは防災情報 XML フォーマット形式電文を試験的にサイトで公開。2012 年 11 月～12 月にはコンソーシアム等と協力して、気象データアイデアソン/ハッカソンを開催。
あおもり映像コンテンツ・プロモーション	観光プロモーションに活用できる映像素材を県職員が自ら撮影し、YouTube 等に公開。二次利用可能な独自の利用規約を作成し、幅広く活用されることを目指している。
LOD チャレンジ	2011 年に続き 2 回目の開催。データセット部門、アイデア部門、アプリケーション部門、ビジュアライゼーション部門の 4 部門に対し計 205 作品の応募があった。3/7 に表彰式を行う予定。
CKAN を用いたデータカタログサイト	データポータルソフトウェアである CKAN(http://ckan.org)を用いて、日本のデータカタログをまとめたサイトを構築。現在、有志のコミュニティで運営。2013 年 1 月 31 日現在、オープンガバメントを推進している地方公共団体のデータを中心に、125 のデータセットを掲載。

受賞作品名	概要
横浜オープンデータソリューション発展委員会の活動	横浜から世界に向けてオープンデータによって成長・発展する新しい都市の姿を発信していくことを目的として設立。アイデアソンやハッカソンの開催、情報発信など積極的に活動。
東日本大震災アーカイブほか 3 件	震災の被害状況を可視化し、災害の実相を世界につたえる多角的デジタルアーカイブズ。個別に存在していた被災地の写真、パノラマ画像、被災者の証言、TV 報道映像、ジオタグ付きツイート等のデータを一元化し、Google Earth の三次元地形に重ね、俯瞰的に閲覧することができる。さらにタイムスライダー機能を備えており、震災発生後の時間経過に沿って資料を閲覧することも可能。データを iPhone の AR ビューで閲覧できるアプリもリリースしている。
エレクトリカル・ジャパン	東日本大震災後の日本の電力事情を理解するための電力データ集約・可視化サイト。電力の供給に関するデータとしては、日本全国約 3300 ヶ所の発電所の位置や出力を独自に調査してデータベース化するとともに、各電力会社が提供するリアルタイム電力供給データをアーカイブして利用。一方電力の需要に関するデータとしては、日本全国の電力消費を象徴するデータとして夜間照明光を観測した衛星観測データを可視化することで、電力供給を象徴する発電所の分布と比較できるようにした。また電力需要に関係する気象データ(アメダス気温・日照時間)も電力データと関連付けて利用できるようにしている。さらに経済産業省資源エネルギー庁や財務省が公開する政府統計データを解析し、グラフなどの形で可視化。データを核としたストーリーを作るデータジャーナリズムの方法論を活用し、日本の電力事情を発電所が開設された歴史のアニメーションで表現したり、電力融通データが示す意味などを解釈したりするなどの試みを行った。
流山市/流山市議会の取組み	市と市議会両方のサイトでオープンデータに取り組んでいる。市議会のサイトでは、議員基本情報や定例会議審議結果などを csv 形式で公開。
電脳みやしろ	オープンデータの活動が広がる以前からホームページ上に多様な種類のデータ提供を実施。